

学習指導案の形式は、それぞれの学校の実態に応じて工夫しましょう。学校教育目標や研究テーマ等を指導案に意識して示すと、めざす子どもの姿がより明確になります。一人一人の子どもの顔を思い浮かべながら、めざす子どもの姿を実現するための具体的な手立てを考えましょう。

第〇学年〇組 〇〇科 学習指導案（例）

〇年〇月〇日（〇）
指導者 〇〇 〇〇

単元について

1 単元名（題材名）

単元名は、付けたい力が分かり、子どもの興味・関心を高めるものにしましょう。子どもと共に単元名を作成することもあります。

2 単元について

（児童生徒観）

単元の内容に照らして、児童生徒の実態を具体的に述べる。

単元の指導内容・事項について、前学年で学んだことや課題、次学年への発展などを書きます。

（単元観）

単元の特徴、付けたい力等について具体的に述べる。

単元を通して付けたい力を考えます。

（指導観）

児童生徒観、単元観、研究の視点等を踏まえ、具体的な指導について述べる。

指導項目を絞りましょう。支援を要する児童生徒への具体的な手立てについても書きます。

3 単元の目標

1単元で評価の観点すべてにかかわる目標を立てる必要はありません。単元の特徴を踏まえ、重点化を図ります。

4 単元構想

単元構想を書くことで、言語活動の目的を明確にしなが授業づくりをします。（前出ページ参照）

5 単元の評価規準

〇〇への関心・意欲・態度	
～している。	

単元の目標の文末を変えるだけでなく、付けたい力を、より具体的なめざす子どもの姿として表記します。

6 指導と評価の計画

時	ねらい、中心となる学習活動	具体的な評価規準・評価方法・評価場面
	単元の目標の達成に向けて、1時間ごとの学習を効果的に積み重ねます。	<p>評価項目は1時間1～2つに絞ります</p> <p>表や記号を使うなどして簡潔にまとめ、指導と評価の計画が視覚的に把握できるよう工夫します。</p>

本時について

7 本時のねらい

ねらいは
はっきり

ねらいは「知識・理解」なのに、評価規準が「関心・意欲・態度」というずれがないよう、整合性を確認しましょう。

8 準備

評価の観点を意識しながら設定します。

学校の教育目標（研究テーマ）等を踏まえた留意点も入れます。

9 本時の学習過程

	学習活動	主な発問 予想される児童生徒の反応	指導上の留意点と評価方法とCの子への手立て
導入	本時について、児童生徒を主語に「～する。」と書きます。	発問や児童生徒の反応を予想することで、児童生徒の思考の流れを生かした授業を組み立てることができます。	めざす子どもの姿としての本時のねらいを達成するために、必要な支援や配慮する点を具体的に示しましょう。
展開	○授業は、ねらいを達成するための中心となる活動から考えて組み立てます。めざす姿に向けて、1～2つに活動を絞ります。 ○ペアやグループ活動等を行う場合は、ねらいとの関連を確認し、目的を明確にします。		○指導と評価の計画から本時の評価規準を記入します。評価場面や評価方法についても、どこでどんな姿を見取るのか、はっきりと書きます。 ◆「努力を要する」状況Cにある児童生徒の把握とその手立てを考え、指導に生かす評価として具体的な手立てを明示します。
まとめ	○めあてに対する振り返りをし、児童生徒にどんな力が付いたのか、次への課題は何かを明確にし、達成感につながるようにします。 ○児童生徒の新たな疑問や課題を全体に投げかけることで、次時への学習意欲につなげます。		次の学びへの意欲

指導と評価の計画をもとに、めざす子どもの姿を具体的に思い描きながら評価規準を設定します。どの場面で、どのような姿をめざすのか明確にすることで、指導に生かす評価が可能となります。

資料として、座席表や補助簿（一人一人または抽出した児童生徒の学習状況を記録）等も添付すると、ねらいが達成できたかどうか、研究協議をするうえで役に立ちます。

学校独自の指導案の工夫

単元や授業において付けたい力を明確にし、そのための項目を設定することも大切な工夫です。このような工夫により、指導の意図を明確にすることができます

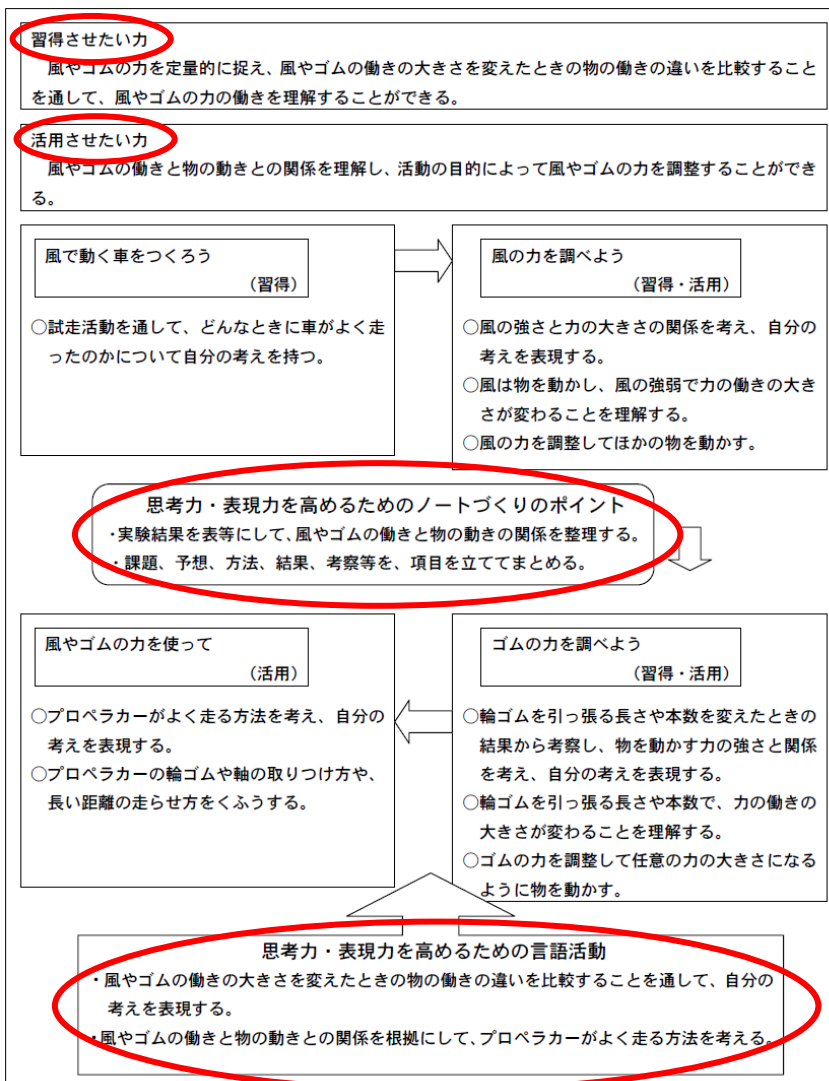
工夫例① 「付けたい力」と「言語活動」 <小学校 第3学年 国語>

単元で付けたい力	・場面の移り変わりや登場人物の性格・気持ちの変化などについて叙述をもとに想像して読む。 C読むことウ
付けたい力に応じた言語活動	・本単元を貫く言語活動として「ゆうすげ村旅館日記を書く」ことを位置付けた。本文に書かれていることを手がかりに、出来事や登場人物の気持ちに着目しながら場面ごとに短くまとめていくものである。したがって、本単元でねらう「場面の移り変わりや登場人物の性格・気持ちの変化などについて叙述をもとに想像して読むこと」(C読むことウ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。
単元目標	・行動や会話などを手がかりに人物の性格や気持ち ・場面ごとの出来事を整理しながらあらすじをま

ポイント

- ◆「単元を貫く言語活動」の設定理由を明確にする。

工夫例② 「学習の全体像」と「付けたい力」 <小学校 第3学年 理科>



ポイント

- ◆「付けたい力」をより具体的に示すことで、めざす子どもの姿をイメージする。



ポイント

- ◆「ノートづくり」についても、その位置付けを明確にする。



吸う空気とはいた空気の違いについて、自分が調べた結果と仮説を照らし合わせて、自分の考えを表現することができる力

**児童に身に付けさせたい力
【指導事項】**

・実験結果を表に表し、複数の結果と比較しながら、呼気と吸気の違いを説明する活動

**取り入れる言語活動
【言語活動の位置付け】**

ポイント

◆「付けたい力」に向かっていくイメージを図式化し、中心となる学習活動を示す。

みんなの実験結果から「減った気体」と「増えた気体」は何だとわかりますか。

・はいた空気と吸う空気の組成を比較しながら、呼吸によって「減る気体（酸素）」と「増える気体（二酸化炭素）」があることを明らかにする。気体の増減に着目することで酸素の一部が体に取り入れられて、二酸化炭素が体の外に出されていることを導き出す。

学び合いのための発問

・気体検知管を使って吸う息とはいた息の酸素と二酸化炭素の量を調べました。予想は酸素と二酸化炭素の量が変わると思いました。結果は表の通りです。

	窒素	酸素	二酸化炭素	その他
吸う息	78 %	21 %	0.04%	
はいた息	78 %	17 %	4%	曇った

・吸う息とはいた息の空気の組成を帯グラフに表している場合は、2の活動の際に提示する。空気組成の帯グラフを提示することで酸素と二酸化炭素の増減に児童の話し合いを焦点化していきたい。

2. 実験結果をもとに呼気と吸気のちがいに ついて話し合う。

○3つの実験からどんなことがわかりますか。

・C1とC2の実験を見てみると、はいた息の方は、燃える時間が短くなり、石灰水が白くにごっているから二酸化炭素が多くなっていることが分かります。
・C3の実験では二酸化炭素の量だけでなく、酸素も変わっていることがわかります。

・C1とC2の実験結果から二酸化炭素のみに着目している場合は、「C3の実験結果をみんなはどのようにとらえていますか」と補助発問をし、酸素と二酸化炭素の両方に目が向くようにしたい。

○みんなの実験結果から「減った気体」と「増えた気体」は何だとわかりますか。
(ペア学習→全体交流→集団討議)

・C3の実験結果を見ると減ったのが酸素。4%減っています。その分増えたのが二酸化炭素です。反対に約4%増えています。
・窒素は関係しないと思う。
・酸素は減っているけれども、全部減っているわけではない。

・全体で話し合う前にペア学習を設定する。ペアで話し合った後、同じ発問を児童に投げかけたい。

○話し合いをまとめると「減った気体」と「増えた気体」は何だと言えそうですか。
・はいた息には二酸化炭素が多く含まれる。その分酸素が減っている。

・根拠をC3の実験結果に求めたい。そのためにはC3の実験結果の酸素と二酸化炭素の増減に着目した児童の発言を大切にす。

・呼吸の際に、酸素がもれなく使われていると考えている児童も予想される。そのためにも、話し合いの様子を見ながら「呼吸のときに酸素は全部使われているのかな」と投げかけてみたい。